

【2015年文化の越境とジェンダー国際シンポジウム in 上海 研究発表 要旨】

マンガ作品における女性ジェンダー表現の教育利用に向けて
——「現実」とのずれを前提に

因京子

1. はじめに

本発表では、マンガ作品をはじめ、大衆文化作品におけるジェンダー表現使用頻度が現実と必ずしも同じでないことを前提に、その表現としての可能性を利用している使用法と固定観念への単なる言及と考えられる使用法とがあることを、2011年より連載されている学園漫画『銀の匙』と「学習漫画作品」とを例に用いて示し、教育においてマンガ作品を利用するための方法について考察した。

2. 女性ジェンダー標示表現の示すもの

前提として、女性ジェンダー標示表現の使用が示す意味は一樣ではないことを確認しておきたい。現実の使用においてもそうであるが、特に作品中の女性ジェンダー標示表現の意味は、作品中の使用・不使用を左右する要因が何であるかによって異なる。

女性ジェンダーを標示する表現は、しばしば、「やさしさ、上品さ、たおやかさ」などの可憐で弱い性質を持つ人物を描く表現として用いられると考えられており、マンガ作品の中に、そうした解釈を想定していると思われる用例がしばしば観察できるのは確かである。しかし一方、マスコミに登場する高圧的な態度で知られる女性タレントやトランスジェンダーの人々の用法にも一脈通じる、自己の優越性を誇示する態度と極めて強く結びついている用例も多い。丁寧度の高い女性ジェンダー標示表現を常用する女性・俗っぽさの混じる女性ジェンダー標示表現を使用する人物・女性ジェンダー標示表現を全く使用しない人物を明白に描き分け、ジェンダー標示表現を使用する人物に特定の価値を与えている作品がある一方、ある文脈要因を前提に特定の効果を意図して使用している例も見られる。

作品中のジェンダー標示表現を含む発話の意味を解釈する上では、個々の使用例の分析だけでなく、「作品」という形で世界が限定されていることを活用して、個々の使用がその作品の中でどのように出現しているか、使用条件を観察することが必要である。すなわち、ある特定の人物への評価と女性ジェンダー標示表現使用とが結びついているか否か、言語使用が発話者の自由な選択によるという前提が示されているか否か、ジェンダー標示表現がどのような表現意図に基づいて使用されていると見られるか、などといった観点から分析することが重要である。

3. 女性ジェンダー標示表現使用の様相

3-1 学園漫画『銀の匙』

北海道の農業高校に学ぶ学生を主人公に、男女の学生、男女の教師、学生の家族などが登場し、2011年の連載開始以来、圧倒的に支持されている作品である。この作品では、男女ともにジェンダー標示表現の使用に多様性があり、「言語」と「風貌」が表示する方向も必ずしも一致していない。本人の意図と他者の視線の食い違いを示唆する用例も見られる。さらに、アニメの「キャラクター」（人物像）が多種類の「芋」のイメージを喚起する手段として使用されるなど、ステロタイプを、特定の価値観の表象としてではなく客体化された表現資源として活用している場面があ

る。この作品から、「理想的な女は女性語を用いるものだ」「やさしさ、上品さ、たおやかさが女性の理想」といったイデオロギーが伝達される余地は乏しいと言えるだろう。

現代の少年誌・少女誌・青年誌・女性誌に掲載される漫画作品や単行本として出版される漫画作品のジェンダー標示表現使用の様相は決して一様ではないが、多様な性や個性の表現が提示され、ジェンダー標示表現が一つの言語資源として豊かに利用できる可能性を示す作品が存在することは確かである。

3-2 学習漫画

小学生を読者として想定した学習漫画、小学館『津田梅子』(以後、『梅子』・同『クレオパトラ』・集英社『アメリア・イヤハート』(以後、『アメリア』)を見ると、『梅子』『アメリア』では登場する女性すべてがきわめて固定的に「～わ」「～かしら」などの女性ジェンダーを標示する文末表現を使用する。話題や聞き手の性別などの影響は見られない。

一方、『クレオパトラ』では、傑出した人物として描かれる女王本人だけは王位に就く前も就いた後も、「内語」をも含めて、一人称が「私」であることを除けば、女性ジェンダー標示表現を全く用いない。一方、一時王位に就いたが政治的器量が少々劣る者として描かれるクレオパトラの姉は、「内語」だけでなく他者への発言においても、「いいですわ」などと丁寧度の高い女性ジェンダー標示表現を用い、王位に就くこともなく能力や資質が非常に劣るように描かれている妹は、「姉さまったら、～しちゃって。私だって、～なのにサ」と、俗っぽい印象を与える女性ジェンダー標示表現を用いている。ここには、男性的表現や丁寧度の高い女性ジェンダー標示表現の使用を「王者あるいは人間としての器量」の表示として用いる意識が感じ取れる。

明治期の日本や現代の外国・古代の外国という現実から遠い世界の事情を現代の小学生に理解できるよう伝える困難の大きさを斟酌しても、こうした提示が教育教材の中に提供され、潜在する前提についての分析的観察を行う機会が与えられないとすれば、いささか問題であると言えよう。

4. 漫画の教育利用

どのような作品に対峙するにも、作者の描いたことを「唯一の真実」として受け取るのではなく、表現の生起している枠組みを意識して解釈することが必要である。日本語教育に漫画作品を利用する場合は、日本社会との直接的接触の量に制限のある学習者が発話例をそのまま他の文脈にも使用できる「モデル」として受け取ることがないように注意すべきである。作品を選択する場合は、多様性を含み相対化を促す表現を行っている作品を用いるべきであるが、そのような作品を用いるとしても、「ある言語表現」とそれが特定の文脈の中で帯びる「ある意味」が直接結びついているわけではないことに対する学習者の認識を促す必要がある。学習者の運用力促進のためには、解釈される意味を共有するだけでなく、その意味が生まれる道筋に関与している要素とそこに働く推論とを観察する活動を行い、応用可能な解釈メカニズムの理解を進める必要がある。

判断力を発展させる過程にある年少者が読者として想定される場合には、ジェンダーの表示が特定の価値判断に直結している提示を避けるという選択も可能であるが、少なくとも中学年以上の者には、複数の作品の言語使用の様相を観察して、それが喚起しようとしている印象を認識する、自分の周りで見聞きする言語との異同を観察するなど、批判的読者としての観察力を養う教材として利用することが可能かつ有意義であると思われる。

[引用作品]

荒川弘『銀の匙』①-⑬ 小学館 第1巻初版 2011年、第13巻初版 2015年
佐野未央子・堀之内雅一・青木富美子『アメリカ・イヤハート』集英社 2012年
津田塾大学津田梅子資料室監修・みやぞえ郁雄画『津田梅子』小学館 1997年
近藤二郎監修・梶川卓郎画『クレオパトラ女王』小学館 2014年

(ちなみ きょうこ・日本赤十字九州国際看護大学教授)